

授業概要

学校図書館が担う学習センターとしての機能を十分に発揮できるようにする。そのためには、読書学習の実践的な理論を身につけておく必要がある。様々な読書活動を体験しながら、どのような力を育成することができるか話し合い、学習指導としての気づきを増やしていくことにする。

読書活動の豊かさや奥深を味わいながら、学校図書館の機能をさらに追究できる可能性を求めていきたい。

授業計画

第 1 回	学校図書館司書に求められることと司書教諭の仕事、読書の意義
第 2 回	学校での読書活動と読書指導・教育施策と読書
第 3 回	学校図書館の目的と読書能力の発達
第 4 回	読書力の発達過程と図書の種類
第 5 回	読書環境の整備
第 6 回	子どもと本とを結ぶ、ストーリーテリングの活動
第 7 回	子どもと本とを結ぶ、読み聞かせの活動
第 8 回	子どもと本とを結ぶ、ブックトークの活動
第 9 回	子どもと本とを結ぶ、ビブリオバトルの活動
第 10 回	読書指導における、本のしおりづくり
第 11 回	読書指導における、本の帯づくり
第 12 回	読書指導における、本のPOPづくり
第 13 回	読書感想画の学習指導
第 14 回	読書交流会の学習指導
第 15 回	テーマ読書交流の展開と可能性
第 16 回	レポート提出 まとめ

到達目標

学習としての読書指導のねらいと実際を捉えて、様々な読書活動をコーディネートしようとする。

読書指導の方法を体験しながら、読書学習を推進していこうとする。

履修上の注意

教員をめざす者として遅刻をしないようにする。自分なりの感じ方や見方を出し合いながら、様々な考えを幅広く受け止め、自分の感性をさらに豊かにしていく姿勢で臨むこと。

予習・復習

授業で扱った読書作品に関連・発展する作品等、調べて次時につなげる取り組みを行う。それが復習となり、予習につながる。

評価方法

各回における授業中の話し合い活動への参加状況（30%）授業中の振り返りおよび提出物（40%）最終レポートの提出と内容（30%）

テキスト

必要に応じて資料を配付する。なお、テキスト、参考文献等については、授業内で指示する他、適宜推奨図書を紹介したり、必要な資料を配布したりする。